

市長のあまねくつぶやき

〈十年今昔〉市制施行10周年を迎えて

この時期になると、今年の流行した言葉や商品の事がメディアに取り上げられます。雑誌に今年のヒットしたものの第1位は「北陸新幹線」となっていました。その雑誌編集長のコメントで、平成27年のキーワードは「日本再発見」、北陸新幹線まで見ぬ日本の美しさを発見することだそうです。

10年前のヒットものとしてはお手ごろ価格の液晶テレビや愛・地球博（愛知万博）などがありました。愛・地球博のテーマは「自然の叡智^{えいち}」。人と自然がいかにして共存して行くかというコンセプトで環境を主とした万博でした。

また、今年10月末に閉幕したイタリアのミラノ万博は「地球に食料を、生命にエネルギー」というテーマで開催されました。食料の考え方や食文化に関するテーマなどさまざまな観点からの展示がなされ、日本館においては「和」の文化を中心に日本の四季や「和食」、日本人の伝統的な食文化などが展示されていました。郷土食や文化・伝統、地域特性などを発見するためには、他の誰かに素晴らしさを見つけてもらうことが大切な時代になってきたと思います。

地方創生において地域活性化を図るためには、地域特性を生かした戦略を立てていかなければなりません。このため、将来の行方市がどのような街になっていくか、多くの皆さんからの意見を取り入れながら総合戦略づくりを進めています。現在、「市民100人委員会」や「なめがた未来のまちづくり協議会」、行方市議会における「地方創生推進特別委員会」とともに戦略書策定の検討を行っており、来年3月までに行方市版総合戦略および行方市第2次総合計画を策定します。

今年は、行方市のこれまでの10年の問題点や良かった点を「再発見」する年でした。また、これからの10年の計画を策定していくための重要な年でもあります。来年は、総合戦略および総合計画を実行し、未来の行方を創っていく年になりそうです。

行方市長 鈴木周也



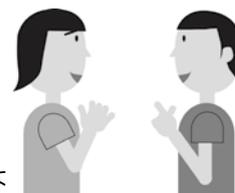
市長へのEメール
投稿用2次元コード



市政に対する意見や
提案をメールでお寄せ
ください。

はい、こちら行方市消費生活センター！

電気ストーブを使用中の火災にご注意！！



例年、12月からストーブによる火災が急増します。電気ストーブ類は、炎が出ていないため安全に見えますが、熱があるので火災の危険があります。ストーブの近くに布団・衣類や雑誌などがあると接触して出火する危険があり、主な出火原因となっています。特に事故が多いのは、就寝中の使用によるもので、ストーブの消し忘れや寝返りをした際などに布団に引火してしまうケースです。

電気ストーブのほかにも石油ストーブでは、こぼした灯油に引火して出火した火災、ガスストーブでは、漏れたガスや近くのスプレー缶が破裂して出火した火災などが多く発生しています。

いずれにしても、これからの時期に使用頻度が多くなるストーブや暖房器具を使用する際には十分注意し、寝るときやその場を離れるときは、必ずスイッチを切るようにしましょう。使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いておくことも予防につながります。普段からストーブの近くに物を置かないようにし、不注意や不適切な使用による火災を防ぎましょう。

また、暖房器具などをはじめ電化製品の不具合による火災・事故も発生しています。使用する際に、不具合が生じた場合は使用をやめ、メーカーに相談しましょう。

— まずはお電話を！ —

【問い合わせ】行方市消費生活センター TEL 0291-34-6446